

明石市立文化博物館の指定管理者候補者について

地方自治法、明石市公の施設に係る指定管理者の指定手続等に関する条例及び明石市立文化博物館条例に基づき、「公の施設」である明石市立文化博物館について、令和7年4月1日から指定管理者による管理運営を行うため、次のとおり、指定管理者の指定に係る手続を進め、指定管理者候補者を選定した。

なお、指定管理者の指定に際しては、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を経る必要があり、以下は、指定をする前段階としての“選定”結果である。

1 指定管理対象施設及び指定期間

- (1) 名 称 明石市立文化博物館
- (2) 所 在 地 明石市上ノ丸2丁目13番1号
- (3) 指定期間 令和7年4月1日から令和10年3月31日

2 指定管理者候補者

- (1) 団 体 名 小学館集英社プロダクション・鹿島建物共同事業体
(代表者) 株式会社 小学館集英社プロダクション
代表取締役 松井 聡
- (2) 所 在 地 東京都千代田区神田神保町2丁目30番地

3 指定管理者が行う業務

- (1) 明石市立文化博物館の運營業務
- (2) 明石市立文化博物館の施設及び設備の維持管理に関する業務
- (3) 明石市立文化博物館の施設の貸出に関する業務
- (4) 明石市立文化博物館の利用料金の設定・収受に関する業務
- (5) 上記業務に係る物品の管理及び庶務業務

4 指定管理者の指定までの手続き

- (1) 指定管理者の公募 令和6年7月1日 募集要項の公表
明石市ホームページ
- (2) 募集期間 令和6年7月1日～9月6日
- (3) 応募者説明会 令和6年7月16日 参加団体数2団体
- (4) 申請書配布期間 令和6年7月1日～9月6日
- (5) 申請受付期間 令和6年8月29日～9月6日
応募申請 1団体
- (6) 選定委員会 1回目 令和6年6月15日
2回目 令和6年9月28日
- (7) 選定結果通知発送 令和6年10月下旬
- (8) 指定議案 令和6年12月市議会上程
- (9) 指定の通知 令和6年12月
- (10) 協定の締結 令和7年3月
- (11) 事務の引継ぎ 令和7年3月
- (12) 指定管理者制度開始 令和7年4月1日

5 応募団体

募集期間終了までに次の応募団体から申請書の提出があった。(※団体名を記載)

No.	団体名	団体の形態	所在地	主たる業種
1	小学館集英社プロダクション・ 鹿島建物共同事業体	共同事業体		
	株式会社 小学館集英社プロダクション	株式会社	東京都	番組企画・制作、 教育事業
	鹿島建物総合管理株式会社	株式会社	東京都	建物総合管理

6 指定管理者候補者の選定

(1) 選定の方法

応募団体の選考に当たっては、明石市立文化博物館指定管理者候補者選定委員会を設置し、5人の委員（学識経験者2名、公認会計士1名、経営実務家1名、利用者代表1名）を委嘱し、委員が各応募団体の提出書類、プレゼンテーション及び質疑応答の内容に基づいて審査を実施した。

申請団体の評価を行い、各選定委員の評価点を合計し、最も評価点の高い団体を、市長へ推薦した。

この選定委員会からの推薦を受けて、市長が指定管理者候補者として選定した。

(2) 審査の基準

審査に当たっては、明石市公の施設に係る指定管理者の指定手続等に関する条例第4条に定める審査の基準を基に、評価項目及びその配点を設定し評価を行った。

評 価 項 目		評 価
提 案 内 容	1 運営方針、運営体制	25点
	2 事業計画	70点
	3 収支計画	5点
評 価 点 合 計		100点

総合評価点 500点（100点×選定委員5人）

7 審査結果の概要

選定委員会による審査の結果は、別紙「指定管理者審査結果一覧表」のとおり。

最も評価点の高かった次の団体を、選定委員会から市長へ推薦し、市長が指定管理者候補者として選定した。

指定管理者審査結果一覧表（明石市立文化博物館）

評価 順位	団体名	総合評価点 (500 点満点)	評価コメント
1	小学館集英社プロダクション・鹿島建物共同事業体	340.2	【全般】 ・代表企業・構成企業共に経営基盤が安定している点は評価が高い。 ・指定管理期間が3年と短く、その後の運営が不透明にもかかわらず、積極的で意欲的な提案内容であった。 ・いずれの提案項目にも次世代育成の視点が盛り込まれている点が評価できる。 ・コンセプトを実現するにあたっての方策に具体性に欠ける箇所があったため、今後の実施方法に期待する。 ・多くの提案事項の実施には、市との協力・協働が必要である。選定後の市との基本協定締結時に役割分担を確認し、提案事項を実現できる体制を整えたうえで実施することを期待する。 【運営体制】 ・学芸員のスキルアップについては、内部研修だけでなく、日本博物館協会や文化庁などが実施する外部の研修にも参加し、より見識を深めてほしい。 【特別展】 ・提案のあった2つの特別展は社会的な内容のものであり、来館者へのアプローチによっては中身の濃い学びにつながる可能性が高く、評価できる。 【地域・関係機関との連携】 ・地域のイベントに参加するなどの姿勢は評価できるが、自らが主体となるような取組についても期待する。 【施設の有効活用】 ・利用者意見を積極的に取り入れている点は評価できるが、テラスの活用等については新たな提案はなかった。 【施設管理業務】 ・夜間・休日においても施設管理担当の職員を施設に常駐させており、施設管理面での安心感が高い。 【市との協力・協働体制】 ・市と積極的に連携していきたい思いは評価できるが、概ね現行の取組にとどまり、効果的と思われる新たな取組の提案はなかった。 【収支計画等】 ・計画そのものについては安定しているが、これを実現するため、新たな来館者の確保等、集客に向けた取組に期待する。